

令和6年度 園評価書

園番号 49

園名 西久保こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かなたくましい子	考え 試して 工夫して	色々なことに興味をもち、自分から積極的にかかわり夢中になって遊んでいる 自分で、もしくは友達と一緒に考えたり試したり自由に発想したりして遊びを楽しんでいる 友達の思いに気付き、自分の思いや感じたことを言葉や態度で表現できる	園児の興味関心や発達に合った環境を用意することで、好きな遊びを見つけ夢中になって遊ぶ姿が見られた。経験が少ないことも保育教諭と一緒にやってみようとする姿が見られるようになってきた。その一方で、公共の物を大切に扱おうとする姿には課題がある。片付けやすい環境や保育教諭の声かけ等に配慮が必要である。 遊んでみたい環境を工夫することで、園児が遊びを選び、考えたり試したりする姿に繋がっている。また、園庭で一緒に遊ぶ時間を設ける等、異年齢交流を意識したことで、乳児の興味の広がりや、幼児の思いやりの気持ちに繋がった。今後も安全面や環境の配慮など職員間で協力し合い園児の育ちを大切にしていこう。 泣いている友達に気付き優しく声をかけ慰めたり、友達が嬉しさを感じていることに共感したりするなど、友達の思いに気付いている子がいる。自分の気持ちをうまく伝えられない園児には保育教諭が思いを代弁し、その場に合った言葉を添える援助をしている。	B	A	・園児たちは目をキラキラさせながら“一生懸命遊んでいる”という様子がよくわかる。今朝も遊びの様子を見ていたら「いいで」「いいい」と子ども達同士でやりとりし、保育教諭が側についていなくても子ども達だけで考えたり、相手の思いを受け入れたりしながら遊んでいるのがよくわかって、いいなと思った。 ・廃材を利用した製作遊びをたくさんしているところがこの園の良いところだと思った	・引き続き園児の遊びから興味、関心を探り、何が育っているか、何を楽しんでいるか、課題は何かを把握し、育みたい園児の姿に具体的な願いを持つ。また、ニヤリハットで園児の姿を伝え合うことを続けていく ・遊びが充実するための援助や環境構成を短いスタンズで行っていく ・乳児と幼児と一緒に園庭で遊ぶ時間帯を設けるなど、自然な形で異年齢交流を大切にしていこう ・片付けしやすいように入れ物にラベルを付けたり、玩具の量を調節したりして環境を整えるとともに、保育教諭自身も手本になる様に整理整頓された教室を維持する

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園児の発達や個々の生活背景を考慮し、一人一人の状況に応じた柔軟で応答的な援助や環境を整えている	園児の生活リズムの違い、保育時間の違いなど園児それぞれの生活環境や発達の違いがあることを職員が理解し、保護者からの連絡や担任が気付いた事ごとなど必要な情報を共有することで、一人一人に合った対応をしている。今後も園児の情報共有はしっかりと行っていく。	A	A	・環境は保育教諭だけがやるのではなく、園児達と一緒に遊び、子ども達の声をききながら作っていくのがいいと思う ・園内研修は職員皆で学べることが大切だと思う。平等に研修に参加できる場を設けることがポイントになると思う	・園児一人一人の成長を職員間で共有し、連携をとる ・昼打ち合わせの情報をもとにしっかりと書き、同じクラス担任に伝達する。フリー保育教諭は職員室にある日誌を確認する
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムを大切にしながら安定した気持ちで過ごせるよう工夫している	登園時間や生活リズムが個々によって異なり、同じ園児でも日によって違うことがある。そのため家庭での様子を連絡帳や毎朝の健康観察で確認しつつ、スキップを取ったり午睡時間や活動の調整をしたりして、一人一人が安心して心地よく生活できるようにしている。	A	A		・園児の様子をコドモンで保護者に伝え、子育てを共にしていく協力体制を作っていく ・5歳児検診について学び合う機会を設ける
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが自ら興味を持って周囲の環境に関わって遊んだり、満足したりして園生活が送れるように配慮している	園児たちの遊びから興味・関心を探り、会議や昼の打ち合わせで表れを共有しながら、園児の発想を取り入れた環境構成をしている。定期的に職員が各クラスを周り、遊びの実態を職員間で共有したり幼児と乳児が園庭で一緒に遊ぶ時間を設けている。	B	A		・自然な形で異年齢交流を大切にし、課題があればその都度リーダー会議などで行えることを話し合う ・お部屋巡りを定期的に行い、公開保育での学びを実践に活かしているか確認し合ったり、互いの保育を認め合い、良いところは自分の保育に取り入れていくようにする
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ヒヤリハットを全職員で共有し、安全対策をしている。避難訓練、不審者訓練を通して、園児に非常時における動きが身につくよう配慮している	ヒヤリハットは当日のうちに皆で周知するようにしているが、報告が少ないことが課題である。避難訓練、不審者訓練を様々な想定で繰り返し行うことで職員の連携も取れ、園児も避難方法が身についてきている。職員の減災意識を高めるために学んでいるところである。	B	B	・園児達の様子を見ながら環境を構成するとは具体的にどのようなことなのかと思った ・園では教育課程から期の構想、月案、週案を考えあえる程度この時期にこんな遊びを経験させたいと計画して環境構成している	・ヒヤリハットは月に一斉提出する ・ヒヤリハット事例に対し、対策したその後の状況を確認し、共有する ・減災教育について学び、実践に活かしていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	健康に生活する習慣や態度が身につくよう援助している。また、食へ関心をもち、楽しい雰囲気の中食事でできる環境になっている	毎月の食育の日の中で、旬の食べ物や日本の行事に添った食文化に興味を持てるような話をしている。園児達が育てた野菜を給食で食べたり、クッキングしたりすることで、より一層身近な食材に関心を持てるようにしている。また、生活の中で給食の支度や手洗いを丁寧に伝えることで、身辺自立に向けて援助している。	A	A	・園児達ののねらい通りに子ども達が遊びを発展させていくとは限らないので、目の前にいる子ども達の遊びをよく理解して、環境を変化させているのだとわかった	・食事のマナーや身辺自立に向け、個々に合わせて丁寧に指導していく ・健康保健の年間計画を意識した保育指導案を作成し、園児達に指導していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	サポートプランに基づき、その園児の特性を活かしたインクルーシブ保育をしている。また、気になる子への支援方法を職員皆で考えて支援し	サポートプランを立てることで、個別対応支援を明確にすることができている。特別支援担当者会議、職員会議で個々の姿を伝え、表れや支援方法を共有している。その一方で、情報や支援方法が共有できていないという意見もある。	B	B		・引き続きその時々で気になる子への支援方法を、ABCログやストラテジーシートを活用して職員みんな考えていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各分掌が役割に責任をもち、組織として協力し合いながら運営をすすめている	分掌が中心となり進めているが、リーダーに頼りすぎでリーダーが仕事を抱え込んでいるという課題がある。リーダーは仕事の振分けと進捗状況の確認に責任を持ち、他の職員は協力し合おうという意識を持ち、分掌の運営に取り組んでいく必要がある。	B	B	・運動会で見えた保育教諭の連携はとてもすばらしかった ・園児達がいながら園内研修を全員でやることは苦労があると思う。よくやっている	・年度初めに任命された分掌の役割を理解する ・分掌リーダーが仕事を割り振り、進捗状況をみんなに周知できるように可視化して貼り出す
6 研 修	(1)研修体制の充実	遊び構想や研修テーマを基に園内研修で意見を出し合い、環境及び援助の方法を学び合っている	園内研修ではテーマに添った内容になるよう、工夫、改善を繰り返している。研修内で様々な意見を出し合い実践に活かしている。よりわかりやすい研修の進め方や、学びを伝える報告の機会を設けるようにしている。	B	A		・園内研修はパート職員も参加できる回を設ける ・研修主任は、研修報告を数回に分けて行い、学びを全職員に共有する。また職員は研修だよりをしっかりと読む
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの姿から興味や関心を理解し、継続して遊びが充実するための支援や、環境の再構成を行っている	園児の興味、関心、つぶやきを捉えながら遊びを広げ、環境構成の整備、工夫をしている。目の前にいる園児の表れから環境の再構成をすぐにしていくことについては、保育教諭の引き出しを増やしていくことで「もう一回やってみよう」に繋がるようにしていく。	B	B	・コドモンでお便りが配信され、カラーで写真が見れるようになりとてもいいと思う。今までは玄関に掲示されていたが、スマホで見れることで、家族で見ることができし、祖父母にも見せられる ・紙で配布しなくなったことで、保育教諭の業務に少しでもゆとりができたのなら、とてもいいことだと思う ・食育の活動も、奉仕作業も来年度も保護者会として続けていきたいと思う	・昼打ち合わせ後の環境整備を定着させる ・園児の表れから、経験させたい遊びの教材研究をしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園だより、クラスだより、掲示板などで保護者にわかりやすく内容を発信し、子育ての喜びを共有し合える関係を築いている	今年度より園だより、クラスだより等がコドモンによる配信に変り、カラー写真で園児たちの様子がより一層伝わりやすくなった。また1月よりドキュメンテーションを活用することで、わくわくボードを連動させていくことができるようになった。	A	A		・保育教諭はコドモンでドキュメンテーションや連絡帳を配信できるようになる。また、園児の経験していることや育ちを捉えた内容や遊びのその先の展開に向けた保育教諭の期待や願いを書いていき、保護者と共有する
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小学校への訪問計画を調整し、関係づくりを進めている。また、園だよりやHP、アプローチカリキュラムを届け、園の活動や遊びの実態を発信	辻、横砂こども園との交流、祐師地区の私立保育園と連携を取り、祐師小学校との意見・情報交流会を行った。また、中学生、高校生の職場体験、大学生の実習の受け入れを行っている。	A	A		・小学校との交流や近隣園との交流を調整し、関係づくりを進めていく ・小学校へアプローチカリキュラムを渡し、日々の遊びの中で育っている子ども達の姿を伝えていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の子どもが健やかに育つ環境を提供している。また、地域の行事等に参加し、交流を大切にしている	おしゃべりサロン、子育てトーク、ふれあいサロン、秋葉山公園への出前保育を行っている。中学生と避難訓練と一緒にいったり、高校生、中学生の職場体験を受け入れたりしている。また、地域の商店の協力により食育の活動を行っている。	A	A		・地域の方との交流（おしゃべりサロン、食育の取り組み）を継続し、地域資源や人材を取り入れた教育、保育を実践していく